

令和6年度卒業生が回答した卒業時到達目標ごとの自己評価表－4年間を通して－の結果一覧

			令和5年度	令和6年度
			N= 46	N= 55
I 看護を実践する			n(%)	n(%)
看護の原理	看護サービスの効果的提供のための看護組織とマネジメントについて理解できる。	到達していない	0 (0%)	1 (2%)
		あまり到達していない	0 (0%)	2 (4%)
		ほぼ到達している	34 (74%)	34 (62%)
		到達している	12 (26%)	17 (31%)
	護の学びを通して自分なりの看護観を形成する	到達していない	0 (0%)	1 (2%)
		あまり到達していない	0 (0%)	2 (4%)
		ほぼ到達している	25 (54%)	22 (40%)
		到達している	21 (46%)	30 (55%)
	さまざまな看護場面におけるさまざまな対象者に応じた看護の役割・活動及び専門性を実践を通して総合的・統合的に考えることができる。	到達していない	1 (2%)	1 (2%)
		あまり到達していない	1 (2%)	1 (2%)
		ほぼ到達している	32 (70%)	29 (53%)
		到達している	11 (24%)	24 (44%)
ライフプロセスと看護	個人、家族、集団の健康レベルの回復、維持、増進をはかるために、統合的に考え、看護が実践できる。	到達していない あまり到達していない ほぼ到達している 到達している	0 (0%) 2 (4%) 33 (72%) 11 (24%)	1 (2%) 0 (0%) 33 (60%) 21 (38%)
II 人とつながる				
ヒューマンケアと看護倫理	様々な看護場面から他者のところを理解すると共に自己理解を深め、ヒューマンケアにおける人間関係について考察できる。	到達していない あまり到達していない ほぼ到達している 到達している	0 (0%) 1 (2%) 24 (52%) 21 (46%)	1 (2%) 1 (2%) 27 (49%) 26 (47%)
III 健康とつながる				
統合体としての人間と健康	健康概念の観点から対象者の生活の支援を総合的に評価し、考察することができる。	到達していない あまり到達していない ほぼ到達している 到達している	0 (0%) 1 (2%) 31 (67%) 14 (30%)	1 (2%) 1 (2%) 28 (51%) 25 (45%)
IV 社会とつながる				
ヘルスケアシステムと看護	さまざまな健康レベルにある対象者に必要な健康支援の政策について理解を深めることができる。	到達していない あまり到達していない ほぼ到達している 到達している	0 (0%) 2 (4%) 27 (59%) 17 (37%)	1 (2%) 1 (2%) 30 (55%) 23 (42%)
V 未来につながる				
教養とキャリア発達1	自分の課題を解決し、自己の関心のある看護の課題をさらに追求することができる。	到達していない	0 (0%)	1 (2%)
		あまり到達していない	1 (2%)	3 (5%)
		ほぼ到達している	26 (57%)	32 (58%)
		到達している	19 (41%)	19 (35%)
	看護専門職としての将来の自分像を考えることができる。	到達していない	0 (0%)	1 (2%)
		あまり到達していない	1 (2%)	3 (5%)
		ほぼ到達している	26 (57%)	21 (38%)
		到達している	19 (41%)	30 (55%)
自由記載欄	カリキュラムには大学ならではの様々な視点から物事を捉え自分で学習できるような状況が整っているものばかりでした。グループワークなどみんなで考える機会が多かったことで視野が広がり、よかったです。			
	一年次から課題や演習、実習、定期試験に着々と取り組むことで、しっかりと看護の知識を蓄えられる内容であったと感じる。その積み重ねがあったからこそ、国家試験対策をするにあたって大きな困難はなかったと思う。			
	四日市看護医療大学に入学でき、4年間このカリキュラムで学修することができて本当によかったと思っています。しかし、1年生の時の解剖学の講義は学生の主体性を考えてくださったものかもしれませんが、4年生の国試になってもう少し先生から教わるがあると、学修が進めやすかったのかなと思いましたので、改善していただけますと今後の方たちにとって良いのではなかとと思います。			
	1学年で治療学や薬理学などの授業がありましたが、治療や薬理はまずは疾患や解剖生理学をしっかりと勉強した後勉強すると学習が深まると感じていました。しかし、先生方の温かい対応やサポートは本当に素晴らしいかったです。温かい学校だと感じていて満足しています。			
	解剖整理の授業は本当に最悪でした。今の授業スタイルがどうなっているかはわかりませんが、生徒が授業してるようなもんで本当に国試大変でした。			
	教科が多すぎる。			
	いいのかよくないのかわからない。			
	低学年は暇だと感じた。			
	4年間の授業や演習、実習を通して、基本的な知識・技術に加え、思考力や倫理観など看護職に求められる能力や資質の基盤を身につけることができるカリキュラムになっていると考える。			
	充実していた。			

卒業生が回答した卒業時到達目標ごとの自己評価表ー4年間を通してーの結果一覧

令和6年度

N= 51

臨床検査学科			n(%)
基礎教育科目	基本的な知識を深め、想像力を深めることができる。	到達していない	2 (4%)
		あまり到達していない	2 (4%)
		ほぼ到達している	32 (63%)
		到達している	15 (29%)
	幅広く医療現場を学び、自己の価値・倫理観を形成することができる	到達していない	2 (4%)
		あまり到達していない	2 (4%)
		ほぼ到達している	32 (63%)
		到達している	15 (29%)
	あらゆる医療現場におけるさまざまな対象者に応じた臨床検査技師の役割・活動及び専門性を実践を通して総合的・統合的に考えることができる。	到達していない	2 (4%)
		あまり到達していない	3 (6%)
		ほぼ到達している	34 (67%)
		到達している	12 (24%)
専門教育科目 (専門基礎分野)	人間の健康や環境を理解し、生活者視点より医療技術援助を実践できる。	到達していない	2 (4%)
		あまり到達していない	3 (6%)
		ほぼ到達している	35 (69%)
		到達している	11 (22%)
	医療現場から他者との関係を理解すると共に自己理解を深め、コミュニケーションにおける人間関係を考察できる。	到達していない	2 (4%)
		あまり到達していない	4 (8%)
		ほぼ到達している	32 (63%)
		到達している	13 (25%)
	健康概念の観点から対象者の生活の支援を総合的に評価し、考察することができる。	到達していない	2 (4%)
		あまり到達していない	4 (8%)
		ほぼ到達している	31 (61%)
		到達している	14 (27%)
専門教育科目 (専門分野)	あらゆる健康レベルにある対象者に必要な健康支援について理解を深めることができる。	到達していない	2 (4%)
		あまり到達していない	4 (8%)
		ほぼ到達している	34 (67%)
		到達している	11 (22%)
	自分の課題を解決し、自己の関心のある医療の課題をさらに追求することができる。	到達していない	3 (6%)
		あまり到達していない	2 (4%)
		ほぼ到達している	35 (69%)
		到達している	11 (22%)
	臨床検査技師としての将来の自分像を考えることができる。	到達していない	3 (6%)
		あまり到達していない	8 (16%)
		ほぼ到達している	26 (51%)
		到達している	14 (27%)

自由記載欄

4年間で学生生活でもこれから仕事するにもコミュニケーション能力が大切なのに気づきました。